

## 「物価の優等生」のいま

「物価の優等生」と言われた鶏卵価格はいま、変化の時を迎えている。JA 全農たまごの鶏卵価格 (M サイズ基準値、東京) は、2016 年に前年比 10% 以上下落したが、今年の 3 月以降は 3 カ月連続で前年同月比上昇となっている。

農林水産省によると、2016 年 11 月から高病原性鳥インフルエンザが発生した 6 道県で、約 130 万羽の採卵鶏を殺処分した。その影響で供給量が例年より絞られていることに加え、4 月 16 日の「イースター」(復活祭) に向けて鶏卵大手を中心にたまごの殻に絵柄を描いて楽しむイースターエッグ需要が高まるなかで不足感が出ているという。

近年の鶏卵価格は、栄養や味を高めた「ブランド卵」の生産に力を入れていたほか、アベノミクスによる円安で飼料代が高騰するなどして、2012 年の 179 円/kg から 2015 年の 228 円/kg まで、3 年連続で上昇していた。

こうしたなかで鶏卵供給は増加していったものの、2016 年になると供給量の増加を背景として上記のような価格下落を招いていた。

このような動きは、TDB 景気動向調査の結果にも表れている。養鶏業における景気 DI は、2014 年平均 51.4→2015 年平均 56.2→2016 年平均 49.3 と推移、2016 年に大きく悪化した。しかし、2017 年平均 (1 月～4 月) は 55.4 へと上昇しており、特に 2016 年の半ばを底にして景況感は急速に上向いている。企業からも「鶏卵相場が堅調に推移している」(養鶏、富山県) といった声が聞かれるようになり、鶏卵の市場価格が企業の景況感を改善する大きな要因となったことがうかがえる。

しかしながら、鶏卵価格動向を地域別に細かくみていくと、様相の異なる実態が浮かび上がる。県庁所在地および人口 15 万以上の市を対象とした小売物価統計調査 (総務省。白色卵、L サイズ、パック詰 10 個入り) によると、2017 年 1 月～3 月平均の鶏卵価格は最も高い山形市 (259 円) と最も低い佐賀市 (190 円) では 69 円の差がみられている。また、価格変動では、上昇が 33 市だった一方、下降したのは 46 市にのぼり、全国的にはまだら模様といえよう。

鶏卵価格が大きく変動する背景には、養鶏業の構造問題がある。卵はほぼ国産であるが、飼料まで考慮すると自給率は 13%にとどまるという。環太平洋パートナーシップ協定 (TPP) の行方に不透明感が増すなか、「物価の優等生」と言われた鶏卵業界の今後が注目されよう。

(撞球者)

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。